

## 親が判断をしやすくするために必要なこと (その1)

### ■ 定期接種機会の拡大(多様なニーズに対応):

基礎疾患等があっても希望者には定期接種を極力安全に受ける機会を提供する。また、全ての単独接種の希望者も定期接種の対象とする。

追加の定期接種対象は中1、高3だけではなく、定期1回接種者全員に拡大する。(キャッチアップキャンペーンと定期接種の枠は切り離して議論すべき)

### ■ 長期的対応策の明示:

妊婦麻疹、母子移行免疫低下による新生児罹患増加、高齢者麻疹、修飾麻疹等、2012年以降も長期的に対応していく必要性が予想される問題に対しての具体的な対策を明示する。



### ■ 副作用被害に対する補償の拡充:

“疑わしきは、全て救済”の精神をユーザーに近い自治体や医療関係者に浸

## 親が判断をしやすくするために必要なこと (その2)

### ■ 中立で正確な情報を提供:

判断材料として正確な情報提供が今後一層必要とされるため、具体的な提示内容を示す必要がある。

さらに、ただ、恐怖心や不安を煽るのではなく、一般的な経過・看病の方法、重篤な経過や修飾麻疹等を含めて、義務教育における授業や出産準備クラス(各自治体、病院・助産院等で開催)等にて勉強できる機会を設ける。

### ■ 実施側の研修の強化:

事故防止の観点だけでなく、よりユーザー側に近い実施主体である被接種者への情報の橋渡し役として重要なポジションであることを重視し、各自治体関係者・医療関係者の研修時、「勧奨接種」の考え方(親の判断を尊重・差別はしない)の再確認、リスクコミュニケーションの知識を持つファシリテータ育成のためのプログラム等を研修内容に盛り込み、強化する。

